

秋野菜物類の播種期を逸した

厳しい残暑に降雨がなく、芽生えも枯死する

小名濱測候所の話によると、夏の平均温度は攝氏の廿五度前年に比べると一度内外高く、海水温度の如きも、廿三度に達し、今年より三度も高いことに土用もとうにすぎた最近に至つて、漸暑する傾向があるとの事である。即ち目下高氣壓が小笠原方面に入り却つて夏らしく濱通り地方には當分降雨な

海水温度

漬物類の 大根は今月一杯に種をまけば何とかなるが他の秋野菜はもう播種期を逸し折角給水して播種し漸く芽生えたものも枯死する状態で今秋の收穫が思ひやられる

關東大震災記念日に

平町では酒なしデー、鐘笛等を合圖に黙禱

平町にては來月一日の關東大震災七週年記念日に當り、午前十一時五十分を期して一齊に寺院の鐘鼓や工場機關車等の汽笛を吹き鳴らし、全町民が一分間に亘り黙禱を献げて無駄排除等に就いての反省を爲し各團體聯合して酒無しの宣傳を行ふ由

東北庭球大會に

磐中組出場

明廿七日より仙台鐵道局コトにて開催される第五回東北中等學校庭球大會出場のため磐中庭球部一行は左

だねられて前記櫻村村中井某方へ子守奉公中チブスに罹つて全快後も衰弱甚だし父永三郎が背負つて歸る途中列車中で心臓麻痺で死亡したものであると

木炭小田原評議

既報濱三郎木炭同業組合の

故意か？自動車前に飛び出した朝鮮坑夫

平署が怪しむ

昨廿五日午後四時五分頃石城郡小名濱町下町馬目嘉右衛門方自動車運轉手月山留治(ニ)が小名濱より湯本町方面に自動車を運轉し、來り湯本町關船地内に差懸つた處前途に行人あるを認め盛んに警笛を吹き鳴らした所一度道の

北海道の旅

門傳辯護士の使

北海の天地は昔日の面影全く消え失せ至る處大都會の小天地に自我の存在を誇るの笑止さ加減は恰も井中の蛙大海を知らざるに等し、さるにつけ郷土平町の爲政者並に有志家の奮勵努力を望むや切なるもの候、小生は只今札幌の繁盛に驚きつ、明日小樽方面に向ふ所存に候(八月廿三日札幌にて門傳清吾)

蘭市場開始

四倉と勿來

昨廿五日から開始された四倉勿來兩蘭市場状況左記の如くである

四倉市場(取引總貫數) 八百七十貫六十四匁(高値) 二圓卅六錢(安値) 一圓四十五錢(買馴れ) 一圓八十九錢 勿來市場(取引總貫數)

役員會は去る廿四日午後一時より平町事務所で開催、検査員の淘汰並に職員の整理及俸給減額に關して協議する處あつたが容易に一致を見ずして結局來る卅一日午前十時より評議員會を開き最後の決定をみる筈である

模範雇人表彰

東北雇備人獎勵會にては此程小名濱町にて第六回表彰式を舉行本縣下の模範雇備人卅七名に對し幹事五十嵐權次郎氏より夫々賞品を授與したが其内平町の受賞者左記の如くである

岡田千藏方松崎新三郎、鈴木堅助方佐々木茂、本間三郎方大河原孝貞、松崎三郎方山野邊武雄、高野得助方川田敬三、柏原幸次郎方若松盛次、同松崎喜代司、同秋野國八郎、秋野直次方館内安治、星野久八方高橋義男、五十嵐小方五十五嵐茂、吉由禮次郎方下藤彦吉、同

試合平凡

三中學の野球

既報新山郷七會主催磐城、相馬、双葉の三中學野球リーグ戦は去る廿四日午前九時より双中グラウンドにて開催されたが双葉對相馬が

お断り 「平趣味界」は記事編湊に付き本日休載

五點づゝの同點磐城對相馬が八對十九で相馬大勝利磐城、對双葉は二點づゝの同點で終始平凡な試合に終り午後六時二十分散會した

平局移廳式決定

九月六日午前十時に

平郵便局移廳式が種々準備の都合があつて伸びくとなり仙臺逓信局からの指令が遅れて居たが、九月六日午前十時から舉行すべく決定當日は一般電話加入者も招待する由

中村便り

△中村署會計主任 白河警察署在勤中の鈴木皆次氏 中村警察署會計主任として八月十六日着任

△雷神社の昇格 相馬郡原町字西原鎮座村社雷神社は八月廿日供進し得べき神社に指定された

募集 文藝其他投稿を募集します

平町人事

▲死亡 △南町二〇當時石城郡湯本町大泉アキ子(二二)

常磐片々

大震災記念日に酒なしデー寧ろ大いに呑んで眼がチラつくなんかは震災の實感が出さうでない

自動車の前に身を投げ出した鮮人、命懸けのユスリ

残暑厳しく播種期を逸す、播かないのではなく播けないんだから泣かせる

先日の「四倉救友全滅」の本紙記事に各方面からの實否問合せ救友俱樂部に殺倒するとして山田老ニョタを飛ばすな一と怒る

讀む人慌てすあの記事を御一覽、民政入黨に「ベタリ」調印

社告

坂本忠治

右入社す 緑川松太郎

右退社す 常磐毎日新聞社 八月廿六日

常磐毎日新聞社

御用命通り一戸も

◇チラシは百枚に付十五銭

常磐毎日新聞社



明日の天気 報象氣天 今晩は北寄の風 晴たり曇つたり 幾分驟雨氣味明 日は北の風晴れ 勝のお天気で午 後には曇る

△前六・二〇 夏期獨逸語 講座(第三十三)小田切良太郎
△前九・一〇 料理献立 一、胡瓜の吉野煮、二、茄子のすき焼き、千葉大吉發表、日用品値段「魚るい」
△前一〇・三〇 家庭講座 「等の手ほどきと童曲」三宮城道雄
△後〇・五〇 連續講談「俠客小櫻仙太郎」三席 田邊南龍
△後六・〇〇 子供の時間

須川節

唄 とし子
同 きみ子
同 五郎
三味線 梅丸
同 治丸
同 時松
△須川温泉何處よと問へば 一關より西八里ヨイ
△須川よいとこ私しやいつまでも、手鍋さげてもヨアいとやせぬ
△ふかしませうかおいらん 風呂で、深山鶯ヨアきながら 以下囃子同
△主を待ちわびアラふかし ばに、残すばらふのヨア びん小櫛
△須川名物何かと問へば 高山葡萄にヨア黒い顔
△須川湯どころ三千尺の上はお醫者の要らぬ國
△須川よいとこ湯桁をてら

お琴と長唄 一、お琴茶の湯音頭 二、長唄五郎松本静枝外
△後七・二五 趣味講演「實方中將」東京帝大史料編纂部上田芳一郎
△後八・〇〇 琵琶新曲 日本海大海戦「薩摩絃風」
△後八・三〇 但説「須川節」とし子外
△後八・五〇 新内「石童丸」富士松加賀壽々々
△後九・四〇 時報氣象通報 番組豫告 生蘭相場

す、月にちらりとヨ仇姿 惚れてまぶしいあなたの顔も、ふかし風呂ならヨ思ふ儘
△憂きも病も蒸されてとけて、肌にくれしいヨふかし風ろ
△一夜寝て見りや病氣も癒る、すかはおいらんむし風ろ
△すかはよいとこ一度はおじやれ、深山櫛ヨ咲いて待つ
△すかはよいとこ湯槽の中で、月の下界をヨ聞くらゾオ
△すかむし湯朝霧夜霧、せめて下山のヨ日は晴れろ
△調子そろへてゆ槽の中で唄へましようかヨすかはぶし
△すかは名物何かときけば 湯ぶねかこんでヨア盆踊
△暑い夏をすかはすかれば、深山鶯谷の雪

實方中將

上田芳一郎

趣味講演 一條天皇の御代に左近衛中將から陸奥守に轉じて東國に下り任地に於て卒去された藤原實方朝臣の事蹟は東北人の能く知つて居るところで夫の阿古耶の松の如き人口に膾炙するところであるが中將が何故に陸奥國に下向されたか歴史家は行成卿との關係から勅勸に觸れて配流されたもの、やうに見てゐるが之には多少誤傳もあるやうに思ふ私は陸奥守拜任の経緯と其の任地に居た四年間の事蹟に就いて聊か研究した點を述べて見たいと思ひます

家庭料理二つ

千葉大吉發表
一、胡瓜の吉野煮
▽材料(五人前)種胡瓜二本皮の赤くなりしもの片栗粉少々、色無醬油少々、煮出汁三合
▽調理法 胡瓜の皮を薄く

むき、たて四つ割となし種子を綺麗に除き四分の厚さに切り、水洗ひして茹で火が通りましたら煮汁を全部絞り、煮出汁三合醬油を好みの味に加へ、もう一度煮ます、充分味が付きましたら火より下し、片栗粉を水溶きしトロ／＼になる迄加へ又火にかけて煮立ち加減の時下し熱いうち供します。

二、茄子のすき焼き
▽材料及び分量 丸茄子中位のもの五個、味噌卅匁、玉子の黄味、二個分砂糖七匁、葱、味噌及び胡麻油少々
▽調理法 初めに味噌を裏漉しにかけ、鍋に入れ味噌大匙一杯、砂糖七十匁加へトロ火にてトロ／＼と煮て置き、丸茄子は後先を除きヘタから先きの方に二分巾位に皮をのこしてしまにむきたて二つ割にし水につけ灰汁を取ります後水分を布巾にて取り金串にさし胡麻油を塗りながら焼きます、火が通りましたら前の練り味噌に玉子の黄味を加へ混ぜ合せたのを更に茄子に塗りさつと火にかざします、これも熱いうちに供します。

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎巡文庫 電話六三〇番 (申込次給規則書送早)

明鮮美優 寧町速敏 活版印刷の御用命を御願致します 所刷印日每磐常 五三町橋長町平 (番〇三六新電)

奇妙に良きくハググスリ 不思議膏 神経痛、かたのこり うちみ、くちき、リ ウマチス、齒痛 ハツテ御覽なさい驚くばかり薬効あり 特約店 小野屋薬店 平町四丁目 電話一四四

寶鐸院新盆に付ては時節柄提灯其他供物 御遠慮申上候 平田町 森本盛一

謹啓照清院新盆に相當り候へ共故人の遺志に依り提灯供物等乍失禮 一切御辭退申上候 敬具 昭和五年舊七月 松本 龜吉

天瑞院新盆に相當仕候へ共時節柄 提灯其他の供物一切御遠慮申上度 何卒惡からず御承知願上候 平町田町 松月堂 金子重次

亡父塚本喜八儀 新盆に相當り候處故人の遺志により提灯其他供物等一切御辭退申上度乍失禮 以紙上謹告仕り候也 平町新田町 塚本 保

亡父重雄儀新盆に相當り候へ共緊縮の折柄供養提灯並に供養料其他一切の御贈與を甚だ勝手釜敷候へ共絶對御辭退申上候間不惡御承知被下度願上候 平町鍛冶町 酒井 一 郎 後見者 酒井 秀 治 郎

